

戸田市ウォークابل推進業務 社会実験実施報告

令和8年1月21日
戸田市 都市計画課

項目

ページ

1. 実施概要

2

2. 実施結果

5

3. 効果検証・考察

10

1. 実施概要

実施概要

社会実験の目的

社会実験の目的

■北戸田駅周辺まちなかウォーカブル将来ビジョンの「高架下周辺」の将来像の実現に向けた取組

1. 社会実験の結果を、現在実施している「歩道整備工事設計業務」に反映し、次年度予定の歩道整備工事においてウォーカブル空間の実現を目指します。
2. 社会実験を通じ、ウォーカブル事業の民の担い手となる新たな参画者を発掘します。

<将来ビジョン> 北戸田駅周辺まちなかウォーカブル将来ビジョン より

高架下周辺

～文化芸術からスポーツまで、様々なコンテンツを通じて豊かな感性や創造力を育み、表現できる空間～

活動の重点方針

- 駅前・交流広場からのにぎわいをつなぐ

基盤整備の方針

- 多彩な活動のきっかけとなる高架下周辺のオープンスペース
- 新たなチャレンジを支援する枠組みの構築
- 居心地よい緑や滞在を促す設えのある空間



戸田市ウォーカブル事業の推進体制

- 戸田市のウォーカブル事業は、官民連携による地域の「まちづくりラボ」や「都市再生協議会」と、市が連携し、ソフトとハードの両面での駅周辺の賑わいづくりを創出する。

推進体制

役割：活動主体

北戸田まちづくりラボ

地域から集まったチーム

- ・北戸田商店会
- ・戸田市商工会
- ・戸田市商店会連合会
- ・芦原町会 等

役割：承認機関

都市再生協議会

地域の関係団体による協議会

- ・北戸田商店会
- ・戸田市商工会
- ・芦原町会
- ・施設等管理者
(市、県、県警)

連携

役割：総合調整
戸田市
(都市計画課)

実施概要

社会実験の概要

タイトル	キタトダまちなかミュージアム
目的	①空間の設えを試行する ②新たな参画者を発掘する
テーマ	駅前・交流広場からの賑わいをつなぐ 高架下周辺（歩道の設え含む）の検討
場所	高架脇道路
実施日	社会実験：10/4～10/17の2週間 そのうち、10/4(土)は催事（イベント）実施
時間	■イベント（10/4） ①アートWS・ベンチ製作WS 12:00～16:30 ②モルック体験、協力団体出店等 12:00～16:30 ③スタンプラリー 12:00～15:00 ④キッチンカー 12:00～19:00 ⑤ライトアップWS 16:00～19:00 ■ファニチャー等常設（2週間） 10/4～10/17
コンテンツ	■活動による賑わい・滞在性の創出（10/4） ・キッチンカーの出店／アート企画（ストリートチョークアート・ベンチ製作WS）／モルック体験／ライトアップWS ／笹目川秋フェスタ会場とつなぐスタンプラリー ■ハードの設えによる創出（2週間） ・ストリートファニチャー（ベンチ・遊具・日よけ等）、植栽（プランター）の設置等 ・事業等周知できるサイン・モニメントの設置
検証内容	検証①：アンケート調査 検証②：収支検証 検証③：催事来場者集計 検証④：滞在性調査（AIカメラ）
広報	・周辺へのチラシ配布、ポスター掲示 （チラシ2600枚・ポスター70枚）市SNS、広報誌への掲載

2. 実施結果

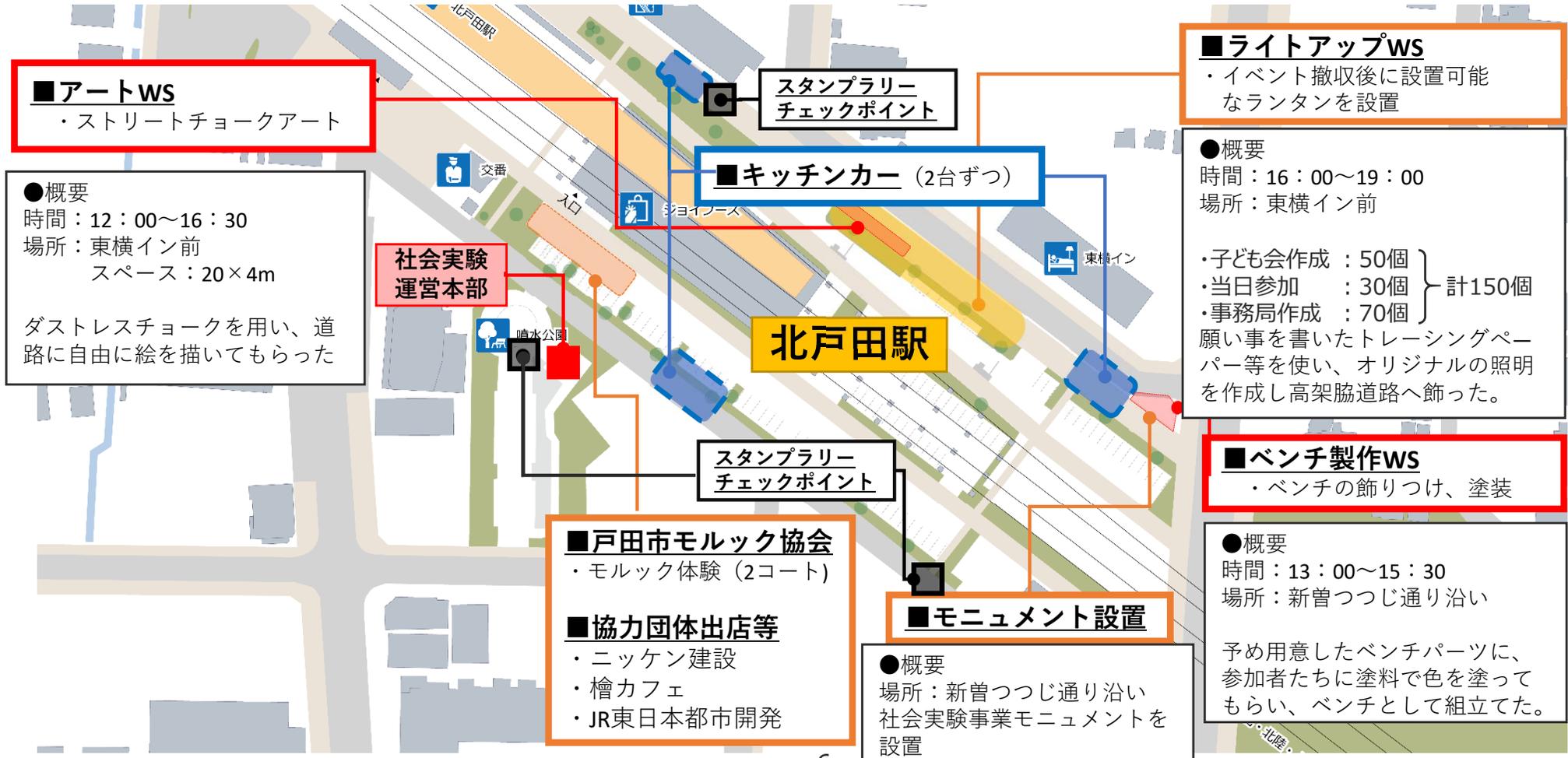
実施結果 (イベント)

イベント (10/4) (土)

イベント開始前からの降雨で運営に影響の出る企画もあったが、都度、雨天対策を施してP.14の来場者数のとおり一定の賑わいを創出することができた。

《雨天対策》

- ・チョークアートWSは雨量に合わせて中断をはさみながら、イベント終了までWSを続行した。
- ・スタンプラリーとモルック体験は雨天の影響を考慮し、イベント終了までに撤収した。
- ・雨によりファニチャーが濡れ、ベンチなどは利用できる時間に制限が生じた。



実施結果 (イベント)

モニュメント



チョークアートWS



ライトアップWS



ベンチ製作WS



ベンチ設置時の様子



キッチンカー



実施結果（ファニチャー等常設）

ファニチャー等の設置状況（10/4～10/17）

設置物一覧

東口の様子



強風による影響

強風・防犯対策



凡例	名称	備考
	人工芝	市所持品・レンタル
	ベンチ	市所持品・タカショー
	チェア	タカショー
	テーブル	タカショー
	バラソル	タカショー
	植物	大・中で半分ずつ
	モニュメント	
	照明柱・引込柱等	検討柱のみ明記
	電柱	検討柱のみ明記
	AIカメラ分析	
	足元灯 青	
	足元灯 白	
	5連灯	



西口の様子



設置中の対策

- 〈安全対策〉・ファニチャー類は盗難対策を施し、雨天時も設置を継続した。
- 〈天候対策〉・強風による影響を鑑み、ファニチャーは紐で固定する対策を施した。観葉植物は転倒の危険性があるため、撤去した。

実施結果

広報（チラシ・ポスター）

- ・イベントと社会実験の実施に向けて、広報用チラシを作成した。
チラシは2600枚程度、ポスターは70枚程度配布した。

▼チラシ

▼チラシ・ポスター配布先



チラシ配布数：計 約2600枚

分類	施設名	配布数
公共施設	戸田市役所	50
	スポーツセンター	50
	彩湖自然学習センター（みどりバル）	50
	児童センタープリムローズ	50
	西部福祉センター	50
	笹目コミュニティセンター	50
	郷土博物館・図書館	50
保育園・幼稚園	近隣の保育園・幼稚園	300
小学校WS	小学生向けのWS参加者に配布	70
町会回覧	各町会	1600
駅	北戸田駅	30
店舗（ウォーカーブル区域内を中心とする、駅周辺）	各店舗	約100
予備・イベント当日分	ラボメンバー個人での配布、イベント当日の案内用	約150
	合計	約2600

ポスター配布数：計 70枚

分類	施設名	配布数
公共施設	戸田市役所	2
	スポーツセンター	2
	彩湖自然学習センター（みどりバル）	2
	児童センタープリムローズ	2
	西部福祉センター	2
	笹目コミュニティセンター	2
	郷土博物館・図書館	2
保育園・幼稚園	近隣の保育園・幼稚園	16
学校	小学校	6
	中学校	3
	高校	2
駅	北戸田駅・戸田駅・戸田公園駅	3
店舗（ウォーカーブル区域内を中心とする、駅周辺）	各店舗	約5
予備・イベント当日分	ラボメンバー個人での配布、イベント当日の掲示用	約20
	合計	約70

3. 効果検証・考察

効果検証

効果検証① アンケート結果

■「来場者」へのアンケート結果(昼間イベント) 回答者数：150名

質問

来場者（日中）向け調査結果

①

北戸田駅周辺を歩く時の過ごし方は？

商業施設への買い物（30%）、公園での滞在（18%）、飲食店舗での滞在（17%）の順に、回答が多かった。

②

ファニチャーを設置したときの居心地の良さは？

満足、やや満足で回答全体の71%の意見を占めた。

③

ファニチャーの中で、あってよかったものは？

ベンチ（34%）、テーブル（27%）、 parasol（19%）の順に、あってよかったファニチャーの回答が多かった。

④

整備後、照明があった方がいいか？

97%があったほうがいいと回答した。特に**防犯対策として照明設置を望む**声が複数あった。

⑤

同様のイベントがあれば、参加したいか？

80%が同様のイベント参加に前向きな回答だった。

■「来場者」へのアンケート結果(夕方イベント※照明) 回答者数：37名

質問

来場者（照明イベント）向け調査結果

①

ライトアップの印象はどうか？

とてもよかった、よかった、普通が、回答全体の86%の意見を占めた。

②

照明に期待することはなにか？

防犯（安心）（41%）、街の雰囲気や美観への配慮（31%）、夜間の視認性（27%）の順に回答が多かった。

③

どのような照明がいいか？

ポール街灯（40%）と地中埋め込み型（38%）がほぼ同数、次点で**ポールライト（腰高）（22%）**となった。

効果検証

効果検証① アンケート結果

■「運営者」へのアンケート結果 回答者数：9名

質問

運営者向け調査結果

①

社会実験のよかった点、改善点は？

イベントに関しては好意的な意見が得られた。東口東横イン前のベンチ等は、線路側に向けて配置したほうがよいという意見があった。また、空間づくりに絡めた実験は、整備効果の有無を明確にする点で有意義という意見があった。

②

ウォーカブル空間として、改善したほうがいいことは？

遊歩道として通れる場所を増やしてほしい、キッチンカー線路側へ向けたほうが良い、JR東日本との連携が必要という意見があった。周辺施設との連動性が欲しいという意見もあった。

③

ウォーカブル推進についてご意見はあるか？

駅前を通行する、恒久的な動機を作るべきという意見があった。整備完了後の駅前をラボで活用したいという意見もあった。

■「協力者(出展者)」へのアンケート結果 回答者数：9名

質問

協力者（出展者）向け調査結果

①

出展場所は使いやすかったか？

とても使いやすかった、やや使いやすかった、という意見が回答全体の56%の意見を占めた。

②

今後同様の取組があれば、出展するか？

全ての回答者が出展したいと回答した。理由として、北戸田を盛り上げたい、ウォーカブルに貢献したいという意見があった。

③

北戸田駅周辺にあつたらいいと思うものは？

清潔感、掲示板、芝の広場、日よけとベンチがあるとよいとの意見があった。

④

ウォーカブル空間として必要なものがあるか？

目で見て楽しい空間、広告発信、ステージ広場、北戸田駅周辺を回遊できるようなまちづくりという意見があった。

⑤

ウォーカブルなまちづくりに対してご意見はあるか？

デザイン的な要素が必要、笹目川、芦原小学校、スポーツセンターまでの回遊性が必要という意見があった。

効果検証① アンケート調査結果の整理

- アンケート調査結果から、社会実験の目的を踏まえ、以下①、②の視点で意見を整理した。

①空間の設えに関する意見

■来場者アンケート

北戸田駅周辺の利用について

- 商業施設での買い物で北戸田駅を利用する人が多い一方、公園での滞在を目的として駅周辺を歩く人も多岐にわたることが分かった。

ファニチャーの設置について

- ファニチャーの設置に対してポジティブな意見を得た。植栽やモニュメント等も設置したが、休憩に利用できるベンチ、テーブル、パラソルなどが特に好評だった。

照明の設置について

- ほとんどの回答者が、整備後の空間に照明が必要と回答した。理由としては、主に防犯・安全面からの要求が多かった。照明の形態としてはポール照明と地中埋め込み型を選択した回答がほぼ同数あり、腰高の照明は次点となった。

■運営者アンケート

社会実験の実施について

- 駅前空間の整備効果の有無を明確にする点で有意義との意見があった。

ウォークアブル空間としての改善点について

- 東口東横イン前のベンチは、歩行者空間となる線路側へ向けたほうが良いという指摘があった。
- 遊歩道として通行できる場所の増加要望や、キッチンカーを歩行者空間となる線路側へ向けて配置したほうが良いという指摘があった。
- 周辺施設との連動が欲しいという意見があった。
- 駅前を通行する動機を作るべきという指摘があった。

■協力者(出展者)アンケート

駅周辺で求めるものについて

- 清潔感、掲示板、芝の広場、日よけとベンチなど、多様な要望が挙げられた。

ウォークアブルな空間として必要なものについて

- 目で見て楽しい空間、広告発信、ステージ広場、北戸田駅周辺を回遊できるようなまちづくりという意見があった。

ウォークアブルなまちづくりについて

- デザイン的な要素の必要性、笹目川・芦原小学校・スポーツセンターまでの回遊性が必要という意見があった。

②新たな参画に関する意見

今後のイベントへの参加意向について

- 同様の取組が実施される場合は、参加したい・やや参加したいと回答した人が8割程度になった。

今後の取組について

- JRと連携していくべきという意見があった。
- 事業者に対する、まちづくりへの参画をもっと働きかけるべきという意見があった。

ウォークアブル推進について

- 整備後の駅前空間をラボで活用したいという意見があった。

今後の出展について

- 同様の取組が実施される場合は、全ての出展者が出展したいと回答した。理由として、戸田市を盛り上げたい、ウォークアブルな取組に貢献したいという意見が多く見られた。

効果検証

効果検証② 収支検証の整理

- ・ファニチャーのレンタル費用を地域企業の協力を得られて当初より抑えることができたが、各WSや実験全体の備品追加などに費用を要した。

	内容	金額（税込）		備考
		予算	決算	
収入	・出店料	18,000	18,000	・イベント時キッチンカー出店料
支出	・備品購入費	275,000	296,000	・モニュメント作成費等含む
	・資材レンタル費	347,000	335,228	・ファニチャー等レンタル費、 運搬費
	・駐車場レンタル費	132,000	117,000	
	・チラシ、ポスター印刷費	17,000	17,200	
	・イベント保険料	11,000	12,000	
	・交通誘導員	133,600	215,600	誘導員6人+デジタル警備 2台
	・消耗品	75,000	110,500	・WS使用機材、景品等
収支	収支一支出 ※差額はウォークابل推進事業支援費用で対応。	-972,600	-1,085,528	

効果検証③ イベント来場者数の整理

- ・雨天の影響もあったが、一定の来場者数が確認出来た。
- ・東西それぞれ、イベント実施時に来場者が多くなっている。東側では、特にライトアップWSを実施している16～17時台にかけて来場者が多くなっている。西側では東側のWSが本格的に始まっていない12時台に多くっており、モルック等のイベントを目的にした来場者が多くなったと考えられる。
- ・断続的に降っていた雨が、WSが実施されている昼過ぎの利用者数に影響した可能性がある。

時間帯	東側 (人)	西側 (人)	計 (人)
12時台	12	130	142
13時台	52	21	73
14時台	58	17	75
15時台	45	21	66
16時台	97	11	108
17時台	104	12	116
18時台	1	4	5
19時台	0	0	0
計	369	216	585

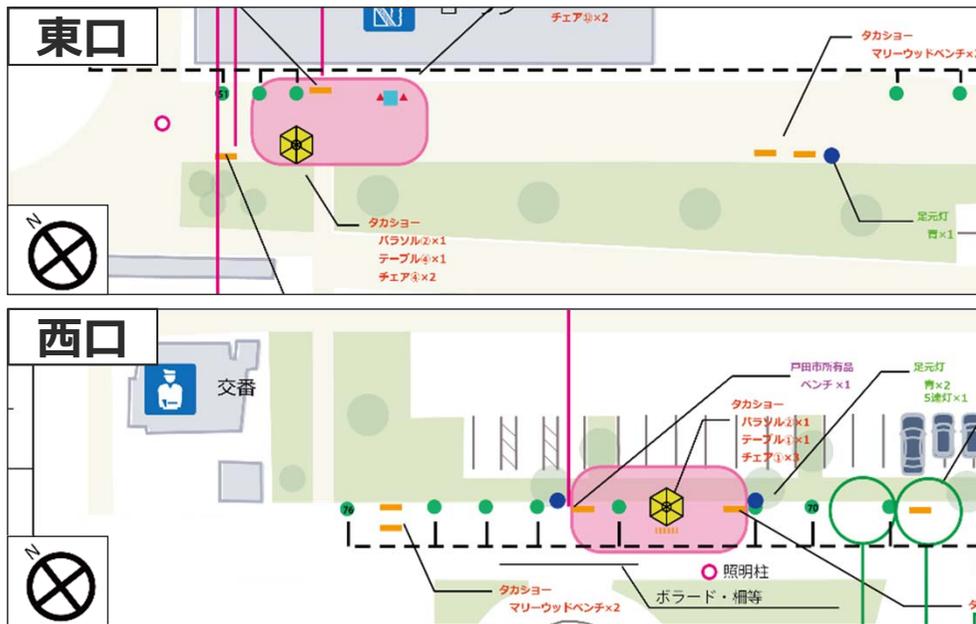
イベント来場者を、1時間毎にカウントし計測

総来場者数合計：585人

効果検証④ 滞在性調査（AIカメラ）

- ・ イベント時や社会実験中にファニチャーの利用が見込める場所（ベンチ付近）にAIカメラを設置し、ファニチャーの利用者数（滞在性）について調査を行った。また、カメラ画角内を通行した人数を集計した。
- ・ カメラは東口のローソン前、西口の噴水公園前にそれぞれ1基ずつ配置した。
- ・ カメラは一方方向を撮影する状態で固定し、期間中は画角や撮影箇所を変更しないものとした。

設置箇所



凡例：カメラ撮影範囲



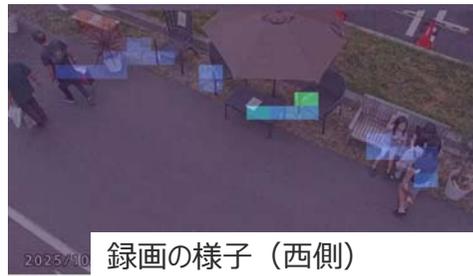
調査日

- ・ 平時と社会実験時の利用状況を比較するため、平時、社会実験実施時共に、平日、休日を選定

計測日	時間	備考
10/4 (土)	7:00~18:00	社会実験、イベント実施
10/5 (日)	〃	社会実験実施 (休日)
10/7 (火)	〃	社会実験実施 (平日)
10/18 (土)	〃	平時 (休日)
10/27 (月)	〃	平時 (平日)



AIカメラ設置の様子（東側）



録画の様子（西側）



録画の様子（東側）

効果検証

効果検証④ 滞在性調査の結果

- 下表が、調査結果をまとめたものである。
- 滞在状況については、カメラ内にあるベンチに1分以上座った人数である。

東口

日付	天気	通行者合計 (人)	内訳(大人) (人)	内訳(子ども) (人)	滞在状況 (人)	備考
10/4 (土)	曇時々雨	2710	2462	248	45	社会実験 (イベント)
10/5 (日)	曇一時晴後、時々雨	1415	1358	57	47	社会実験 (休日)
10/7 (火)	曇	1885	1761	124	41	社会実験 (平日)
10/18 (土)	曇時々晴	2175	2094	81	9	平時 (休日)
10/27 (月)	晴	2133	2049	84	15	平時 (平日)
合計		10318	9724	594	157	平均通行者数2064人/日

西口

日付	天気	通行者合計 (人)	内訳(大人) (人)	内訳(子ども) (人)	滞在状況 (人)	備考
10/4 (土)	曇時々雨	1492	1227	265	32	社会実験 (イベント)
10/5 (日)	曇一時晴後、時々雨	451	377	74	26	社会実験 (休日)
10/7 (火)	曇	406	360	46	10	社会実験 (平日)
10/18 (土)	曇時々晴	454	412	42	0	平時 (休日)
10/27 (月)	晴	342	315	27	0	平時 (平日)
合計		3145	2691	454	68	平均通行者数629人/日

効果検証④ 滞在性調査の整理-まとめ-

調査結果の整理

(滞在状況)

- ・社会実験（イベント）実施日（10/4）…雨天の影響もあるが、AIカメラの直下にあったベンチの利用者がみられた。
- ・社会実験期間中（10/5、10/7） ……ベンチ等を設置する事で平均31人/日と、より多くの人の滞在がみられた。
- ・実験終了後 ……東口ではベンチ撤去後も待ち合わせ等で滞留する様子が散見された。
⇒ベンチ等を設置する事で東口は5日間で延べ157人、西口は延べ68人の滞在状況が確認された。

(その他)

- ・西口の通行者数は全体を通じて東口の約3割弱にとどまり、地理的な要因も考えられるが、空間の見通しの悪さや薄暗さも通行者数の少なさに影響があるのかもしれない。
- ・AIカメラの画角と撮影方向が固定されたため、限られた範囲でのサンプリングとなったが、カメラ画角外のベンチ利用状況も目視で確認されていた。今後、同様の社会実験を実施する際には検証計画の再検討が必要である。

まとめ

- ★検証したすべての日でAIカメラの直下にあったベンチが利用されていた。ベンチが設置されている期間の方が、カメラ画角内で滞留している人が多くなった。 ⇒ **ファニチャーの設置で滞在性への好影響がみられた。**
⇒ **ファニチャーを継続的に設置**することで、**滞留・移動者数の増加**が期待される。
- ★西口側の道路は、照明など効果的な設えが滞在性や通行者の増加に繋がる可能性がある。
- ★ファニチャー撤去後も、カメラ画角内で立ち止まったり縁石に座って休憩する人が確認できた。**ファニチャーを常設**することで、**快適な滞在空間の提供や滞在時間の延長**を促すことが期待できる。

★その他社会実験 ～「ほこみち」設定の検証結果～

実施結果

高架脇道路（歩道）の整備後、北戸田駅駅前周辺での「ほこみち」の指定に向けた取組として、以下のとおりキッチンカーの出店を通じた賑わい創出の効果検証を実施した。

出店日時

計8日（8/27、9/23、9/24、10/7、10/21、11/12、11/24、12/2）

16時から20時まで

※令和8年1月以降も引き続き出店。

場所

北戸田駅東口駅前付近の歩道（ローソン脇） 2台分

合計延べ台数：出店店舗数

延べ13台：5店舗（串焼き、揚げパン、クレープ、ポテト、チュロス等）

延べ台数ベースの1台あたりの来客者数（8/27～12/2）

20.7人/台（計270人÷13台＝20.7人/台）

出店者へのアンケート結果の整理

出店者へのアンケート結果を踏まえ、キッチンカー設置による利便性及び課題点等を抽出し、ほこみち指定に向けて関連する意見を整理した。

①空間の設えに関する視点

- ・駅側から見たときに大きな木が邪魔しており、キッチンカーが出店しているかが見えにくくなっている。
- ・高架下のスーパー（ジョイフーズ）前の歩道を通る人はキッチンカーの裏側を通るため、何を販売しているか分からないまま通り過ぎてしまっている印象。
- ・北戸田駅西口の交流広場整備も踏まえ、今後が楽しみである。

②新たな参画に関する視点

- ・数カ月出店した結果、少しずつお客様がつくようになった（子どもたち）。
- ・実験の取組が浸透するまでは商売にならない店舗がある。
- ・出店時期について、冬場は寒さ等の観点から出店自体が大変。北側なので夏場は少し楽になると思われる。
- ・今後も出店したい。



出店場所



出店時の様子

A poster for 'キッチンカー-DAYS!' at North Utsunomiya Station. The poster features a yellow background with a grid pattern. It includes the text '北戸田駅：キッチンカー-DAYS!' and '2025年 8月 ▶▶ 2026年 3月'. There is a map showing the location of the stand and a list of participating vendors: エムニコキッチン (Emu Nico Kitchen), ディエスキッチン (Dies Kitchen), バウリスタ (Bourista), キッチンカーふらん (Kitchen Car Furran), and ますや (Masuya). A schedule table is also included.

SCHEDULE 9月～12月/各日16:00 START			
9/23(火)	10/7(火)	11/11(火)	12/2(火)
ますや	エムニコキッチン ディエスキッチン	バウリスタ ディエスキッチン	エムニコキッチン キッチンカーふらん
9/24(水)	10/21(火)	11/24(月)	12/13(土)
キッチンカーふらん バウリスタ	バウリスタ キッチンカーふらん	ますや	ますや

出店スケジュールチラシ

得られた成果と課題、設計への反映

- 社会実験では、北戸田まちづくりラボ会議での意見を踏まえたイベントやファニチャーの配置を試行し、アンケート調査やAIカメラの検証結果から駅周辺の整備に向けた要望や需要を把握することができた。
- 社会実験の2つの目的に対し、それぞれの成果・課題を取りまとめ、設計に反映する事項について記載した。

目的	得られた成果	整備に向けた今後の課題
空間の設えを試行する	<ul style="list-style-type: none"> • ファニチャー設置により、滞留空間に関する需要を引き出すことができた。またアンケートから、駅周辺の整備を進めることについて、利用者から好意的な意見を得られた。ベンチやパラソルの需要が高いことが分かった。 • 複数のイベントを実施し、成功裏に終了。北戸田駅東西の将来的な整備、利用の可能性を発見することができた。キッチンカーやイベント実施の需要が見込まれる。 • ライトアップWSを通し、整備後の照明の在り方についての意見を得ることができた。殆どの利用者が照明の必要性を認識しており、防犯対策としての照明が求められていることが分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> • 駅周辺を訪れた人が休憩できる空間の創出（休憩できる施設の設置） • 将来的にイベントやキッチンカー等の利用がしやすいスペースの確保（歩道空間の拡幅など） • 防犯・安全に配慮した照度を確保しつつ、北戸田駅周辺の豊かな空間創出に貢献する照明の検討
新たな参画者を発掘する	<ul style="list-style-type: none"> • 準備会の取組により、地域の多様な方々に参画いただいた • 地域に根差した企業に参画いただいた 	<ul style="list-style-type: none"> • 前年に続き継続的な取り組みのための体制づくり • ラボ会議参加者の拡大



設計への反映

- 照度と空間の豊かさを確保しつつ、**防犯性**に優れた照明を設置する。（ポード照明、ポール照明等）
- **滞在・通行者数の増加につながる効果的なファニチャー**等を設置する。
- 周辺用地の活用を検討しながら植栽の配置も工夫し、利用者の**滞留・キッチンカーなど地域イベントの展開が可能なスペース**を確保する。